

## 詳細技術要件

項目	必要とする特質・性能
<b>I. 検体検査関連機器については、以下の要件を満たすこと。</b>	
<b>1. 検体前処理装置 検体前処理+搬送+保管庫 一式については、以下の要件を満たすこと。</b>	
1-1. 検体前処理ユニットについては、以下の要件を満たすこと。	
1-1-1 省スペース化の為、投入、開栓、分注、仕分、コントロールの投入、すべての工程を1台で行うことが可能であること。	
1-1-2 5検体ラックを使用し一度に200検体を架設でき、ピーク時の検体投入においても十分な処理スペックを備えていること。	
1-1-3 STAT専用のラック投入口(1ラック)を備えており、緊急検体を優先処理することができること。	
1-1-4 検体投入時にバーコードの向きを揃える必要がなく、操作担当技師の作業負担を軽減できること。	
1-1-5 検体投入時に、採血管がラックのそこから浮き上がっていないことを、確認できること。	
1-1-6 検体の全面を読み取れる機構で確実な検体認識が可能であること。また、すべての検体を撮影・画像を保管し、トレーサビリティを確保できること。	
1-1-7 開栓570検体/時(ゴム栓タイプ)、分注540検体/時(500 $\mu$ L吸引、1:1分注時)、仕分1,000検体/時の高速処理で検体前処理の業務効率を高めれること。	
1-1-8 1回の分注量は最大800 $\mu$ L、繰り返し分注により最大5000 $\mu$ Lまで分注することが可能であること。	
1-1-9 検体のコンタミネーションを防ぐため、分注クレーンの周囲を飛散防止カバーで保護していること。また、分注機構の駆動部では安定した動きの分注クレーンを採用し、検体の飛散を最小限に抑えてい	
1-1-10 開栓済キャップや分注チップ廃棄の際に、血清等の汚れが付着する可能性のある箇所はディスプレイ部品で構成により、バイオハザードのリスクを軽減すること。	
1-1-11 2次容器は予めラベルが貼られているプレラベルタイプであり、ラベル消耗品の交換作業がなく、ラベル貼り付け作業不具合などの発生により、臨床側への結果報告遅延に影響しないこと。	
1-1-12 消耗品の使用数の予測や残数管理のナビゲーション機能を有しており、在庫管理が容易となること。	
1-1-13 分注時に圧力センサーによる詰まり検知機能があり、フィブリン塊を検知できること。	
1-1-14 オフライン仕分けエリアは最大280検体(28エリア)に仕分けすることが可能であること。	
1-1-15 分注チップ、2次容器は、十分な数量が個別にパッケージングされており、これらを装置にセットするだけでよいこと。消耗品を補充する回数を減らし、また直接操作担当技師の手に触れることがなく、技師の作業工数の軽減、検査品質の向上に貢献すること。	
1-1-16 コントロール試料は前処理装置内部の保冷機能付き保管庫に蓋付き容器で最大16種類保管でき、精度管理用コントロールを前処理装置から各分析装置に進送することが可能であること。	
1-1-17 装置稼動状態(正常稼動、エラーなど)を装置上部の大型LEDにて視認することが可能である。	
1-1-18 午前、午後、健診などの運用をプロファイル切り替えにより簡単に行うことができる。	
1-2. 検体搬送ラインについては、以下の要件を満たすこと。	
1-2-1 稼動状態を常に把握できるよう搬送ラインを構成するモジュール個々の上部を点灯、点滅、色を変化させることで稼動状態が一目でわかり、稼動状態を容易に把握することができること。	
1-2-2 搬送ラインを構成する個々のモジュールは、モジュール単独で復帰動作が行え、万が一の障害時もシステム全体に影響を与えず、かつ短時間で復帰させることができること。	
1-2-3 方向転換部では下流のモジュールの状態を常にモニタリングし、下流のモジュールがラックを取り込めないなど異常の際は、稼動可能なモジュールに自動的にラックを供給できること。	
1-2-4 搬送ラインを構成する個々のモジュールは、モジュール単独で復帰動作が行える。	
1-2-5 方向転換部では、分析装置のラック取り込み向きに合わせて自動でラックを回転し供給でき、ラック投入向きが異なる装置の接続にも対応できること。	
1-2-6 搬送ラインの搬送速度は、秒速200mm以上であること。	
1-2-7 接続装置がメンテナンス等で一時的に使えない時にも搬送側の操作は一切必要とせずアクティブな装置のみに搬送方向を自動切り替え可能なこと	
1-3 検体収納ユニット	
1-3-1 分注機本体のオフライン分注エリアとは別に、親検体やオフライン機器用検体、外注用検体などを収納できる、検体収納ボックスを備えていること。	
1-3-2 最大8エリアに400検体を収納できること。	
1-3-3 各エリア毎に各社分析装置の専用ラックに対応し、収納できること。	
1-3-4 検体、ラックID、ラックポジション情報を紐付けて上位システムに送信可能であること。	
1-3-5 エラーが発生した場合は発生状況のレベルに応じて大型LED、エラーメッセージ、アラーム音にてお知らせする機能を有していること。	

## 詳細技術要件

項目

必要とする特質・性能

**2. 生化学・免疫統合型分析装置一式については、以下の要件を満たすこと。**

- 2-1. 生化学自動分析装置(A)については、以下の要件を満たすこと。
- 2-1-1 検体前処理装置と連結できる検体の架設方法として5連ラック方式を採用していること。
  - 2-1-2 5連ラックによる検体供給収納機能を有し、最大300検体同時架設が可能であること。
  - 2-1-3 比色部の処理能力は、1モジュールあたり2,000テスト/時 以上であること。
  - 2-1-4 電解質部の処理能力は、1ユニットあたり900テスト/時 以上であること。
  - 2-1-5 比色部の検体分注方式は、ピペッティング方式を採用していること。
  - 2-1-6 試薬セット数は、一つの生化学モジュールあたり70試薬以上であること。
  - 2-1-7 生化学試薬は、第一試薬と第2試薬が一体型となったシステム試薬を用いること。
  - 2-1-8 付帯業務の削減のため、試薬パックに貼付されているRFIDにて、試薬パック毎に測定項目、ボトル番号、ロット番号、期限、開封日、残測定回数に関する試薬管理ができること。
  - 2-1-9 試薬容器の自動開封ができ、測定中でも投入・排出ができること。
  - 2-1-10 比色測定に使用した反応容器は、洗剤もしくは水により自動的に洗浄されること。
  - 2-1-11 反応液の攪拌は超音波による非接触方式を採用し、攪拌棒等によるキャリアオーバーの防止が図れる
  - 2-1-12 反応槽は、恒温水循環方式であること。
  - 2-1-13 反応温度は、37℃±0.1℃の範囲で制御できること。
  - 2-1-14 反応時間は3～10分から選択でき、項目毎に指定できること。
- 2-2. 生化学自動分析装置(B)については、以下の要件を満たすこと。
- 2-2-1 比色部の処理能力は、600テスト/時 以上であること。
  - 2-2-2 検体の分注量は0.1μL毎に設定が可能で、項目毎に1.5～35μLの間で設定できること。
  - 2-2-3 試薬セット数は、一つの生化学モジュールあたり60試薬以上であること。
  - 2-2-4 生化学試薬は、第一試薬と第2試薬が一体型となったシステム試薬を用いること。
  - 2-2-5 付帯業務の削減のため、試薬パックに貼付されているバーコードにて、試薬パック毎に測定項目、ボトル番号、ロット番号、期限に関する試薬管理ができること。
  - 2-2-6 試薬容器の自動開封ができ、測定中でも投入・排出ができること。
  - 2-2-7 比色部の反応容器は、メンテナンス性の良いプラスチック製であること。
  - 2-2-8 反応液の攪拌は超音波による非接触方式を採用し、攪拌棒等によるキャリアオーバーの防止が図れる
  - 2-2-9 反応槽は、恒温水循環方式であること。
  - 2-2-10 反応時間は3～10分から選択でき、項目毎に指定できること。
- 2-3. 電気化学発光免疫測定装置(C)については、以下の要件を満たすこと。
- 2-3-1 測定原理は、電気化学発光免疫測定法(ECLIA)を採用していること。
  - 2-3-2 迅速報告が求められるTSH、FT3、FT4および腫瘍マーカーの測定時間は18分以内であること。
  - 2-3-3 免疫部の処理能力は、300テスト/時 以上であること。
  - 2-3-4 コンタミネーションの防止を目的とした、ディスポーザブルな検体分注チップ及びアッセイカップを用いた機構であること。
  - 2-3-5 試薬セット数は、一つの免疫モジュールあたり48試薬以上であること。
  - 2-3-6 免疫試薬は、第一試薬と第2試薬が一体型となったシステム試薬を用いること。
  - 2-3-7 付帯業務の削減のため、試薬パックに貼付されているRFIDにて、試薬パック毎に測定項目、ボトル番号、ロット番号、期限、開封日、残測定回数に関する試薬管理ができること。
  - 2-3-8 試薬容器の自動開封ができ、測定中でも投入・排出ができること。

**3. 血液凝固自動分析装置 3台については、以下の要件を満たすこと。**

- 3-1 血液凝固項目には、拡散光度法/合成基質・ラテックス比濁法項目には吸光度法を用いていること。
- 3-2 専用試薬および汎用試薬を用いることができること。
- 3-3 血液凝固項目(PT等)の測定能力は最大で400検体/時間、比色項目(AT3等)で最大200テスト/時間以上であること。\*
- 3-4 表示言語が日本語であること。
- 3-5 採血管、汎用サンプルカップの設置が可能であること。
- 3-6 試薬、キャリブレーター、コントロール及びパラメーターの情報をバーコード管理できる機能を有すること。
- 3-7 試薬の保冷機能が10℃以下であること及び結露防止構造を有すること。
- 3-8 設置電源がAC100V仕様であること。\*
- 3-9 機器設置スペースが950(W)×880(D)mmで設置できる、フロアトップであること。\*
- 3-10 システムとのオンラインが可能であること。
- 3-11 緊急検体処理に関して複数の対応法を備えていること。

以下次葉

## 詳細技術要件

項目	必要とする特質・性能
<b>4. 血球計数算定装置1式及び自動塗抹標本作成装置2式については、以下の要件を満たすこと。</b>	<p>4-1 血球計数項目(赤血球数・白血球数・ヘモグロビン量・ヘマトクリット・血小板数・MCV・MCH・MCHCの絶対数・%)必要であること</p> <p>4-2 RDW・HDW・MPV・PDW・PCT情報が必要であること。</p> <p>4-3 測定範囲が広いこと。(白血球数 0.02 ~ 400.0×10<sup>3</sup>/μL以上)(赤血球数 0 ~ 5.00×10<sup>6</sup>/μL以上)(血小板数 5 ~ 3,500×10<sup>3</sup>/μL以上)</p> <p>4-4 検査測定時のピットホール回避に関して、一度の測定で二次元解析(容積と細胞内密度の確認)で測定を行うこと。</p> <p>4-5 赤血球測定に対し、血小板、白血球の影響を受けず、乳糜検体によるヘモグロビン濃度の影響を受けな</p> <p>4-6 赤芽球測定に特別な試薬・追加測定時間が必要でないこと。</p> <p>4-7 血小板測定において、0~50 fl以上の大きさの細胞でも血小板を正確に認識し、大型血小板と小型赤血球を明確に識別できること。</p> <p>4-8 網状赤血球測定に関して、日本透析医学会「慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」に掲載されており、CHr(網赤血球ヘモグロビン含量)が測定可能であること。</p> <p>4-9 白血球分類に関して、ペルオキシダーゼ染色を用いること。</p> <p>4-10 白血球分類に関して、2角度レーザーFCM法である。</p> <p>4-11 更にペルオキシダーゼ陰性の大型細胞領域が測定できること。</p> <p>4-12 脳脊髄液中の細胞数・細胞分類が測定可能であること。</p> <p>4-13 細胞分類の信頼性が高く、細胞数低値の正確な報告が出来ること。</p> <p>4-14 体液測定が自動で可能であること。</p> <p>4-15 細胞数の少ない検体でも脳脊髄液測定機能により細胞数、細胞分類が可能であること。</p> <p>4-16 検体のサンプリング方式に関して、マニュアル測定時でも感染リスクの回避のためにキャップをしたまま測定可能であること。</p> <p>4-17 集積流路系があり汚れやラインの異常を目視によって確認できること。</p> <p>4-18 パーツ間の距離が短くチューブの接続部がなく、ピンチバルブを使用していないこと。</p>
<b>5. 血液ガス分析装置3台及び血液ガス統合情報管理システム1式については、以下の要件を満たすこと。</b>	<p>5-1 pH、pCO<sub>2</sub>、pO<sub>2</sub>、Na<sup>+</sup>、K<sup>+</sup>、Ca<sup>++</sup>、Cl<sup>-</sup>、Glu、Lac、CO-OX(tHb、O<sub>2</sub>Hb、COHb、HHb、MetHb、T-Bil)を測定できること。</p> <p>5-2 画面操作は日本語であること。</p> <p>5-3 測定時間は100秒以内であること。</p> <p>5-4 サンプル量は、シリンジ使用時で200 μL以下、キャピラリー使用時で80 μL以下であること。(キャピラリー使用時はCO-OX(tHb、O<sub>2</sub>Hb、COHb、HHb、MetHb、T-Bil)の測定は不要)</p> <p>5-5 精度管理(QC)を自動化できること。</p> <p>5-6 装置状態を連続的にモニタリングし、問題の認識、是正措置、文書記録までの一連の作業を自動化</p> <p>5-7 院内LANを用いて複数台の装置が遠隔操作可能なこと。</p> <p>5-8 検査システムへの分析・検査結果データ送信ができること。</p> <p>5-9 装置はオールインワンカートリッジ方式で、交換部品が1個であること。</p> <p>5-10 電極・カートリッジは常温で保存できること。</p> <p>5-11 カートリッジは、テスト数75、150、300、450、600から選択できること。</p> <p>5-12 統合情報管理システムについては、GEMプレミア4000(2台)についても接続を実施すること。</p>
<b>6. 自動グリコヘモグロビン分析計については、以下の要件を満たすこと。</b>	<p>6-1 全血および溶血検体のHbA<sub>1c</sub>、HbFを全自動で測定できること。</p> <p>6-2 測定原理は高速イオン交換クロマトグラフィー法(HPLC法)であること。</p> <p>6-3 検出方式は2波長比色法であること。</p> <p>6-4 処理能力は1時間あたり120検体以上であること</p> <p>6-5 電源投入後10分以内で測定結果が得られること</p> <p>6-6 サンプル量は全血で5 μl以下希釈検体で150 μl以下であること</p> <p>6-7 バーコードリーダーを有し、NW-7、Code39、ITF形式のバーコードラベルを読み取ることができること。</p> <p>6-8 サンプル吸引方式はキャップピアッシング・ノズル吸引方式であること</p> <p>6-9 検査情報システムとの双方向通信による検査オーダー情報取り込みおよび分析・検査結果データ送信ができること。</p> <p>6-10 装置操作はカラー液晶画面を有し、タッチパネルにて操作ができること。</p> <p>6-11 2のグルコース測定装置と接続ができること。</p> <p>6-12 現状病院使用の上位HOSTと変換器などを介さず直接接続が可能なこと。</p>

## 詳細技術要件

項目	必要とする特質・性能
<b>7.自動グリコヘモグロビン分析計については、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7-1 全血および溶血検体のHbA1c、HbFを全自動で測定できること。</li> <li>7-2 測定原理は高速イオン交換クロマトグラフィー法(HPLC法)であること。</li> <li>7-3 検出方式は2波長比色法であること。</li> <li>7-4 処理能力は1時間あたり120検体以上であること</li> <li>7-5 電源投入後10分以内で測定結果が得られること</li> <li>7-6 サンプル量は全血で5<math>\mu</math>l以下希釈検体で150<math>\mu</math>l以下であること</li> <li>7-7 バーコードリーダを有し、NW-7、Code39、ITF形式のバーコードラベルを読み取ることができること。</li> <li>7-8 サンプル吸引方式はキャップピアッシング・ノズル吸引方式であること</li> <li>7-9 検査情報システムとの双方向通信による検査オーダー情報取り込みおよび分析・検査結果データ送信ができること。</li> <li>7-10 装置操作はカラー液晶画面を有し、タッチパネルにて操作ができること。</li> <li>7-11 2のグルコース測定装置と接続ができること。</li> <li>7-12 現状病院使用の上位HOSTと変換器などを介さず直接接続が可能なこと。</li> </ul>
<b>8.全自動糖分析装置については、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8-1 血漿、血清、尿のグルコース測定ができること。</li> <li>8-2 測定方式は、GOD固定化酸素酸素電極法であること。</li> <li>8-3 最低必要検体量は採血管で1ml以下、サンプルカップで70<math>\mu</math>l以下であること。</li> <li>8-4 NW7、Code39、ITF形式のバーコードラベルを読み取りできること。</li> <li>8-5 サンプリングはキャップピアス方式であること。</li> <li>8-6 検査情報システムとの双方向通信による検査オーダー情報取り込みおよび分析・検査結果データ送信ができること。</li> <li>8-7 1,000検体以上の患者データ記憶を有し、その結果を上位システムへ再送信する機能および再発行する機能を有すること。</li> <li>8-8 装置操作はカラー液晶画面を有し、タッチパネルにて操作ができること。</li> <li>8-9 電極性能再現性等の診断機能を有していること</li> <li>8-10 1のグリコヘモグロビン測定装置と接続ができること。</li> <li>8-11 現状病院使用の上位HOSTと変換器などを介さず直接接続が可能なこと。</li> </ul>
<b>9.分光光度計については、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9-1 波長幅(バンドパス)が、4nmで検出能力が優れていること。</li> <li>9-2 波長精度が、<math>\pm 1</math>nmであること。</li> <li>9-3 ディスプレイがカラータッチパネルであること。</li> <li>9-4 インターフェースが、RS-232Cだけでなく、USB出力も可能であること。</li> </ul>
<b>10.全自動尿分析装置については、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10-1 5波長LED光源による測定で、尿定性項目のGlu,Pro,Bld,Bil,Uro,Ket,Nit,Leu,Cre,Albを、分析装置でS.G、色調、濁度を測定できること。</li> <li>10-2 ファーストレポートは最速2分15秒、処理速度は225検体/時間であり、迅速検査に対応可能であること</li> <li>10-3 尿定性検査は、2つの試験紙フィーダーを内蔵し、2種類の試験紙の使用が可能であり、必要量を測定中に随時追加搭載可能で試験紙暴露の対策があること。</li> <li>10-4 尿定性検査は、異常発色検知機能、ブランクパッド、温度補正、比重補正、などの各種補正機能により、偽陽性、偽陰性を低減し、高精度なデータを得ることができること</li> <li>10-5 尿定性検査は、色素結合法によりアルブミンの測定ができ、クレアチニン補正が可能な試験紙を使用することにより、随時尿でも尿の希釈・濃縮の影響を回避した精度の高い測定が可能であること。</li> <li>10-6 尿検体の採取が難しい患者にもやさしく、1mLの微量検体で測定可能であること。</li> <li>10-7 キャリーオーバー回避のためHb高値の場合は、専用洗浄液による追加洗浄することができること。</li> <li>10-8 同一メーカーにて尿定性分析装置のバックアップ体制があり、同一試験紙を使用でき緊急対応が可能</li> </ul>
以下次葉	

## 詳細技術要件

項目	必要とする特質・性能
<b>11.全自動HbA1c+GLUについては、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11-1 グルコースとHbA1cを1検体70秒で同時測定ができること。</li> <li>11-2 グルコース測定にはグルコースオキシダーゼ固定化酵素膜(GOD膜)と過酸化水素電極によるアンペロメトリー法を採用、HbA1c測定にはHPLC法を採用しており、グルコース値とHbA1cのほかHbFなどの分画パターンを得ることができること。</li> <li>11-3 カラムとプレフィルタが一体型でありプレフィルタの交換が不要で、メンテナンスが容易であること。</li> <li>11-4 溶離液を環境に配慮したアルミパックに充填することにより、溶離液の濃縮の影響も回避可能であること。</li> <li>11-5 採血管攪拌機能を搭載し、測定前に検体を自動攪拌することにより、血球沈降による測定結果の変動を回避することが可能であること。</li> <li>11-6 微量採血しか出来ない患者検体も専用ラックにセットすることで、サンプルカップとバーコードラベルを紐付けすることができること。</li> <li>11-7 HbA1c測定的光源にはLEDを採用し、交換頻度が大幅に減少すること。</li> <li>11-8 販売メーカーによる保守サービス体制や精度管理プログラムを有しており、バックアップ体制を完備して</li> </ul>
<b>12.赤血球沈降速度測定装置については、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12-1 採血管を用いて、血沈棒を使用しない状態で測定出来ること。</li> <li>12-2 1時間値を20分以内、2時間値を40分以内で測定出来ること。</li> <li>12-3 1台で8検体をランダムスタート、同時測定が可能な装置を2台以上用意し、バックアップ運用が可能なこと。</li> <li>12-4 採血量は1.2ml未満で測定可能なこと。</li> <li>12-5 バーコードリーダを用いて情報入力可能なこと。</li> <li>12-6 900検体以上のデータ保存が可能なこと。</li> <li>12-7 温度補正機能、自己診断機能を搭載していること。</li> <li>12-8 オンライン接続のインターフェースを標準装備していること。</li> <li>12-9 プリンター内臓の装置であること。</li> <li>12-10 印字方式はダイレクトサーマルであること。</li> <li>12-11 AC100V電源使用が可能なこと。</li> <li>12-12 10Kg未満の軽量な装置であること。</li> <li>12-13 装置本体の寸法として、幅400mm、奥行き300mmを超えないこと。</li> <li>12-14 関西地域に外部委託でないメーカー社員の技術者が常駐し修理対応が可能なこと。</li> <li>12-15 当病院 使用中 採血管準備装置に、赤血球沈降速度測定装置専用採血管が搭載出来、運用可能</li> <li>12-16 装置導入後、1年間は保証内対応が可能なこと。</li> </ul>
<b>13.自動染色装置については、以下の要件を満たすこと。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13-1 染色プロトコールは50以上設定することが可能なこと。</li> <li>13-2 H&amp;E染色のベーキング、脱パラフィン、染色、封入、乾燥を同一装置内で全自動で行う機能を有す</li> <li>13-3 染色モジュールにヒーターを備え、染色温度を一定とすること。</li> <li>13-4 試薬の種類やロット番号、有効期限、残量を機器で管理が可能なこと。</li> <li>13-5 染色工程にキシレンを用いないこと。</li> <li>13-6 装置を止めることなく試薬の交換、補充が可能なこと。</li> <li>13-7 標本ごとに個別に染色する機能を有すること。</li> <li>13-8 染色トレイ毎にプロトコールを変えて染色できること。</li> <li>13-9 操作にはタッチパネルを使用して装置の操作や設定値などを設定し、エラーや動作状況を確認でき</li> <li>13-10 タッチパネルで操作が可能なこと。</li> <li>13-11 操作画面は日本語であること。</li> </ul>

## 詳細技術要件

項目	必要とする特質・性能
<b>14.自動染色装置については、以下の要件を満たすこと。</b>	<p>14-1 IHC(免疫組織染色)、ISH(インサイチュハイブリダイゼーション)を処理する機能を有し、かつこれらを同時進行する機能を有すること。</p> <p>14-2 HER2DISHを処理する機能を有すること。</p> <p>14-3 IHCのペーキング、脱パラフィン、抗原賦活化から一次抗体分注、発色、核染色までの一連の工程、及びISHの脱パラフィン、熱処理などの前処理からプローブ添加、ハイブリダイゼーション、洗浄、発色、核染色までの一連の工程を自動で処理する機能を有すること。</p> <p>14-4 染色する場所がスライド1枚ずつ個別に分かれており、各染色を個々に開始でき、また個々に追加できる機能を有すること。</p> <p>14-5 1次抗体の分注は自動及び手動分注が同時に運転できる機能を有すること。</p> <p>14-6 1回の染色のスライド処理枚数は30枚以上であり、かつ35種類の以上の試薬により染色する機能を有</p> <p>14-7 スライド表面を37℃～100℃の範囲でスライドごとに温度設定できる機能を有すること。</p> <p>14-8 スライド上の試薬の染色ムラを防止する機能、及びスライド上の標本及び試薬の蒸発を防止する機能を有すること。</p> <p>14-9 試薬をスライド上で均一に反応させるため攪拌機能を有すること。</p> <p>14-10 各スライドごとに個別に温度の設定や、脱パラフィンや、熱処理の機能を有すること。</p> <p>14-11 制御装置は、染色条件を設定し管理する機能、試薬を自動管理する機能を有すること。</p> <p>14-12 リモートサポートシステムに接続することにより、リモートトラブルシューティング及びオンラインソフトウェアのアップデート出来る機能を有すること。</p>
<b>15.その他フリーザ等については、以下の商品と同等以上の機能を満たすこと。</b>	<p>15-1 浸透圧オズモステーション(ターンテーブル仕様) アークレイ OM-6060 一式</p> <p>15-2 自動血球洗浄遠心機 日立工機製 himacMC450 一式</p> <p>15-3 メディカルフリーザー パナソニック製 MDF-DU500VH-PJ 一式</p> <p>15-4 メディカルフリーザー パナソニック製 MDF-DU500VH-PJ 一式</p> <p>15-5 高圧蒸気滅菌器 パナソニック製 MLS-3781-PJ 一式</p> <p>15-6 メディカルフリーザー パナソニック製 MDF-3781-PJ 一式</p> <p>15-7 CO2インキュベーター ヒラサワ製 DCP-222 (DCP-220+DCP-220) 一式</p> <p>15-8 インキュベーター ヒラサワ製 DLP-52 一式</p>